

コメント

東京大学
理事・副学長
前田正史



東大も被災



- 濱田総長が、この度の震災の被災地であり、本学の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターの所在地である岩手県大槌町を訪問し、飲料水や食料、衛生材料などの救援物資の提供を行った(4月8日)

被災前の国際沿岸
海洋研究センター



壊滅的な被害を受けた国際沿岸海洋研究センター



生きる、ともに

■ 生きる 私、エゴ

- ① 個人の生存
- ② 個人の幸福の最大化

競争による生存

■ とともに 社会、秩序

- ① シンパシー
- ② 共鳴
- ③ 協働

環境放射線の計測と発信を開始



東京大学環境放射線情報(2011.06.06 09:00現在)
(暫定値)

- [過去のデータ](#)
- [環境放射線情報に関するQ&A](#) (2011.06.03 更新)

○平常時の東京大学敷地内の代表的な空間ガンマ線量率は、0.05～0.3 μ Sv/時程度の範囲に入ると見積もっています。使用した線量率計の評価精度も考慮して、ここでは値をまるめています。測定地点の近くに天然石材や敷石などがある場合には、0.3 μ Sv/時に近い値を示す場合もあります。

○柏(2)を測定点として、追加しました。本郷(1)と柏(1)は必要に応じて実施します。

○環境放射線情報は、平日の午後に更新します。

環境放射線対策プロジェクト 内線20527

月日	時間	空間ガンマ線量率(μ Sv/h)					
		本郷(1)	本郷(2)	本郷(3)	駒場	柏(1)	柏(2)
6/3	平時の値	0.05～0.1				0.1～0.2	0.05～0.1
	0:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.24
	1:00	—	0.07	0.12	0.05	—	0.28
	2:00	—	0.07	0.12	0.06	—	0.24
	3:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.24
	4:00	—	0.06	0.12	0.05	—	0.24
	5:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.24
	6:00	—	0.06	0.11	0.06	—	0.25
	7:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.29
	8:00	—	0.07	0.12	0.05	—	0.29
	9:00	—	0.06	0.12	0.05	—	0.25
	10:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.26
	11:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.23
	12:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.25
	13:00	—	0.05	0.12	0.05	—	0.24
	14:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.20
	15:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.23
	16:00	—	0.06	0.12	0.05	—	0.24
	17:00	—	0.06	0.12	0.05	—	0.25
	18:00	—	0.06	0.12	0.05	—	0.26
	19:00	—	0.06	0.12	0.05	—	0.25
	20:00	—	0.06	0.12	0.05	—	0.24
	21:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.27
	22:00	—	0.07	0.12	0.05	—	0.27
23:00	—	0.06	0.11	0.05	—	0.27	
0:00	—	0.06	0.12	0.06	—	0.27	

<http://www2.u-tokyo.ac.jp/erc/index.html>

Q1：東京大学環境放射線プロジェクトの目的、活動内容について教えてください。

A1：当プロジェクトは東京大学災害対策本部の活動の一部として、平成23年3月15日から活動を開始しました。東大構成員向けの環境放射線に関する数値情報の提示を目的とし、本郷、柏、駒場の3つのキャンパスにおける空間量率の測定をしています。その結果を学内ポータルサイトで公表しています。このポータルサイトに直接アクセスできない長期出張中の東大構成員からの要望と、近隣住民のみならずからのご要望を受けて、現在では、ホームページ上でも一般公開するに至っております。この活動をいつまで継続するかについては、現時点では決めておりません。

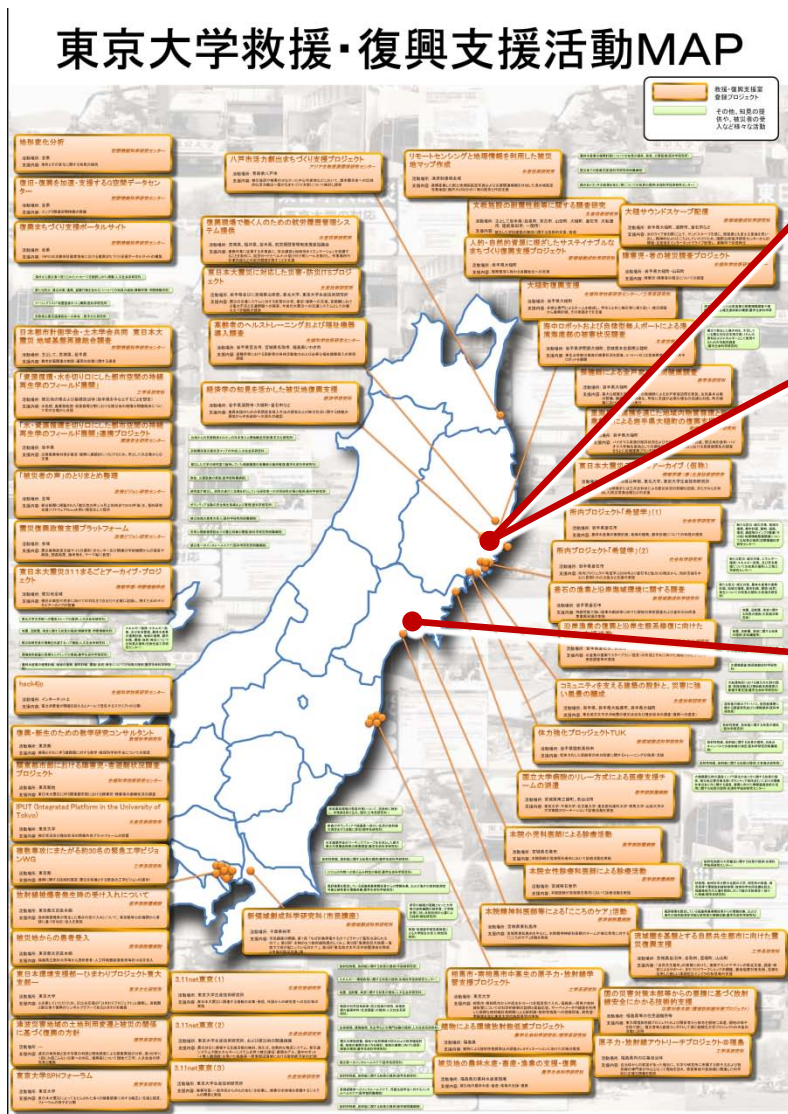
Q2：本郷や駒場と比較すると、柏の値が高いように見えますが、なぜですか？

A2：現在、私たちが公表している柏のデータ（東大柏キャンパス内に設けられた測定点）は、確かに他に比べて高めの線量を示しています。測定点近傍にある天然石や地質などの影響で、平時でも空間線量率が若干高めになっている所があります。また、福島の原子力発電所に関連した放射性物質が気流に乗って運ばれ、雨などで地面に沈着したことが原因であると考えています。気流等で運ばれてきた物質がどの場所に多く存在するか、沈着したかは、気流や雨の状況、周辺の建物の状況や地形などで決まります。

- 福島第一原発事故を受け、対策本部の下に環境放射線対策プロジェクトを設置した
- 本学の3つのキャンパス（本郷、駒場、柏）で約1時間おきに測定した放射線量をウェブサイト上で速報している（現在も継続中）

登録プロジェクトを公表

東京大学救援・復興支援活動MAP



コミュニティケア型仮設住宅地計画プロジェクト

工学系研究科

活動場所: 釜石市 遠野市

支援内容: 東日本大震災の仮設住宅建設において、要ケア居住者の生活の安定化とコミュニティ形成を図る。

所内プロジェクト「希望学」(2)

社会科学研究所

活動場所: 岩手県釜石市

支援内容: 所内プロジェクト「希望学」(2006年より釜石市と協力)の視点から、知的支援を中心に長期にわたる協力と支援の実施

流域圏を基盤とする自然共生都市に向けた震災復興支援

工学系研究科

活動場所: 宮城県岩沼市、名取市、亘理町、山元町

支援内容: 「自然共生都市」の実現に向けて、復興ランドデザインの策定支援、調査・研究によるサポート、まちづくりワークショップの開催、農地塩害対策支援、瓦礫を活用した新しい津波防災インフラの形成等の支援を行う。

プロジェクトの例

- 本学の教育活動、社会連携活動の一環として実施されている救援・復興支援に関わる活動のうち救援・復興支援室に登録されたプロジェクトを取りまとめて公表した(5月27日)
- 今後も引き続きプロジェクトの募集を行う